

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '85 4月号

大礼服

宮中の諸儀式などで着用した礼装の一類を言い、明治五年（1872）にそれまで用いられた衣冠・束帯の礼服にかわる洋式の礼服です。

大礼服には、文官・宮内省大礼服、陸・海軍武官正装、有爵者大礼服、非役有位礼服などの種別

があり、位階・官等によって上着、ズボン、帽剣などの制式を異にしています。今月寄贈品コーナーに展示した大礼服は、文官大礼服および海軍武官正装です。



文官大礼服

収蔵資料の紹介⑦

大礼服

●4月の寄贈品コーナー "ハレ" の世界

私たちの暮らしは、日常の時と何か特別なことがある時に分けることができます。特別な時というのは、その時の衣服に「晴着」といういい方があることから「ハレ」の時と呼ばれます。今回の展示は「ハレ」の時や場を示しているさまざまな資

料を展示します。

期間 4月2日～4月28日

展示資料 南原C遺跡出土の祭祀遺物、高根横穴墓の副葬品、大礼服一式、万祝、仕事師の正装一式など。

♥♥ 4月の行事 ♥♥

1	月	(休館日)
2	火	デッサン教室作品展
3	水	プラネタリウム
4	木	プラネタリウム
5	金	
6	土	プラネタリウム
7	日	プラネタリウム
8	月	(休館日)
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
14	日	プラネタリウム、自然観察会 地層観察会
15	月	(休館日)
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	プラネタリウム
21	日	プラネタリウム
22	月	(休館日)
23	火	緑の国勢調査(打合せ)
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	プラネタリウム、土曜観察会 古文書講読会、石仏を調べる会 天体観察会(打合せ)
28	日	プラネタリウム、地層観察会
29	月	(休館日)
30	火	(休館日)

★☆行事案内☆★

●市民のアトリエ

第9回デッサン教室作品展

昭和59年度会員の皆さんのお手本を展示します。
日頃の研究の成果をごらん下さい。

会期 4月2日～14日

会場 博物館特別展示室

●自然観察会「二宮層の貝化石」

二宮層の地層と貝化石を観察します。

日時 5月19日(日)9～16時
(雨天中止)

場所 大磯町虫塚

申し込み 4月30日までに、往復はがきで博物館まで。多数の場合は抽選で30名までとします。

●体験学習「わらじ」を作ろう

むかし、旅やさまざまな仕事の時にはいた「わらじ」を作ってみましょう。

日時 5月26日(日)10～15時

場所 博物館科学教室

申し込み 5月16日までに、往復はがきで博物館まで。多数の場合は抽選で30名までとします。

●星を見る会「月を見よう」

日時 5月28日(火)18～20時

場所 博物館科学教室～屋上

参加自由。科学教室集合。

博物館にある望遠鏡で、上弦(半月)をすぎた月面を観察しましょう。

★ プラネタリウム ★

今月の投影「太陽の顔いろいろ」

明るく丸い太陽が、その外側にもついている素顔を、X線や紫外線で見てみましょう。

60年度 年間参加者募集中

○天体観察会

月食や流星群、ハレー彗星などを観察します。星が好きで、ただ見るだけでは飽き足らないという人たち、ぜひご参加下さい。

対象 高校生以上

定員 20名

申し込み方法等、詳しくは、博物館受付で配布中の案内書をごらん下さい。郵送をご希望の場合は、60円切手を同封してお申し込み下さい。

申し込みの最終締切は、4月10日です。

○土曜観察会「自然の新聞を作ろう」

市内を中心に身近な場所で動植物を観察し、自然を題材とした新聞づくりをします。

日時 毎月2回(土曜日の14~17時)

(4月は14、27日。5月は11、19日。)

申し込み 参加希望の方には、予定表と手引きを送付します。60円切手を同封して、博物館までお申し込み下さい。(期間中常時受け付けます。)

○緑の国勢調査・協力者

昨年度に引き続き、70種類の身近な動植物の分布を調べる「緑の国勢調査」を行います。

打合せ 平日コース 4月23日(火)午前中

休日コース 4月28日(日)午前中

まとめ 平日コース 11月 5日

休日コース 11月10日

*1人1㎢ほどの調査メッシュを受け持ち、4月~10月の期間中に、各自3~4回、動植物の分布を調べていただきます。

*特別な予備知識は必要ありません。

*希望者を対象に、期間中に数回、見分け方の講習をかねた合同調査も行います。

*申し込み 往復はがきで、4月10日までに博物館までお申し込み下さい。

○石仏を調べる会

市内の社寺、路傍などに建立されている石造物を調べて歩きます。今年度は大野地区を調べます。

期間 60年4月13日~61年3月22日

毎月第2、4土曜日の14~16時

申し込み 往復はがきで、博物館までお申し込み下さい。

○古文書講読会

市内に残る江戸時代の古文書の読み方を学びながら、江戸時代の歴史について学びます。

日時 毎月第1・3土曜日の14~16時。

(全21回)

定員 30名

申し込み 往復はがきに、住所・年齢・電話番号等を記入の上、4月15日までに博物館までお申し込み下さい。

○デッサン教室

美術の表現の基礎的訓練として、デッサンを行います。観察力・表現力を身につけましょう。

期間 60年5月~61年3月

毎月第2木・金曜日

10~16時30分

対象 成人。1年間続けて出席できる方

定員 50名

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・年齢を記入の上、4月20日までに博物館までお申し込み下さい。

○地層観察会

月に1~2回、日曜日に、野外で平塚周辺の地層を観察します。

期間 60年4月~61年3月。月に1~2回の割合で、日曜日に行います。

対象 中学生以上

定員 30名

申し込み 参加希望の方には案内書を送付します。60円切手を同封し、博物館までお申し込み下さい。

4. 農間余業

江戸時代の百姓は、稲作生産を強制された農民です。農民の日常生活全般にわたり微細に規定し、農民が遵守し心得なければならないとされた、五人組帳前書にも、田畠耕作についての規定が多く含まれていました。したがって、貸かせぎの労働や商売は、農作業のさまたげになるものとして禁止されたのです。しかし、江戸後期には、農間稼（のうかんかせぎ）・農間余業と称してこれが一般化してきました。

こうした状況下、幕府は文政十年（1827）以降、農業生産をさまたげるものとして、余業の取調べを特に実施しています。平塚市域に含まれる村々も、この文政期を境に農間稼・余業の実態が少しづつわかるようになっていきます。地域の村のうち余業として記載される商売は、延宝八年（1680）、徳延村における酒造に関する記録が最初です。続いて、片岡村、延享四年（1747）「指出帳」によれば、百姓家数62軒のうち、1軒が造り酒屋を経営し、その創業は元禄八年（1695）とされています。小瀬村に正徳三年（1713）の村明細帳には、農間稼として女が木綿取りに従事していると記載され、須賀村、天明八

年（1783）の村鑑によれば、男は魚獵回船稼、女は苧うみ・木綿取りが余業とされました。文政・天保期になれば、各村々の地誌取調書には、普通、余業として、男は繩・筵、女は木綿糸取りが貸かせぎの労働として記載され、そうした記載のある村々は、城所村・飯島村・南金目村・真田村・広川村・徳延村・出穂村・土屋村・下吉沢村・大崎村・平塚宿など11か村を数えます。特に平塚宿では、男の稼として往来雇歩行や地引網漁稼があるとされ、土屋村では繩・筵織の他、薪木伐り稼があることなど、その村の立地する条件により貸稼にも特徴があったことが判明します。では一村でどのくらいの農民が農間稼を行っているかですが、例えば文政十年（1827）、朝氏村惣数7軒のうち、農間稼馬渡世・農間稼綿打渡世・大工渡世それぞれ1軒づつ計3軒の諸商内・諸職人がいたとされます。また真田村、文政十年「農間商内渡世之者名前取調帳」によれば、家数29軒のうち9軒について、医師・鍼灸師・質物取扱・居酒渡世・髪結渡世などの諸商内職人がいるとされています。さらに、西海地村、文政十年の同一資料には、西海村惣家数21軒のうち4軒が、酒井諸品商、水油紙類色々商ひ、飴壳渡世、飴壳井小間物渡世を行っています。天保一四年（1843）岡崎八か村（上・下入山瀬・大畠・北大畠・丸島・大町・馬渡・矢崎・西海地の各村）について、農間渡世人の名前54人が判明します。それによれば、酒造・醤油造・質物・大工・豆腐・古着・古道具・家屋職・綿打・油小売・檐屋・下駄職・小間物など多種多様の稼ぎ方があることがわかり、「出商ひ」といわれる行商も行われていました。こうした余業の発展は商品生産の展開にともない繁栄したものと一般的に言われています。

（学芸員 土井 浩）



渡辺翠山「遊相日記」の水菓子小売渡世